「加速器」Vol. 3, No. 3, 2006（328–330）

談話室

広島大学放射光科学研究センター設立十周年記念式典の報告

堀　利匡*

Report on 10th Anniversary Commemorative Ceremony of HiSOR

Toshitada HORI*

広島大学放射光科学研究センターは，個体物理学をはじめとする物質科学研究を推進するため国立大学法人に唯一の放射光源を擁するセンターとして1996年5月に設立された．先般，設立十周年を迎えるにあたり，記念式典が5月19日に広島大学西条キャンパスにおいて挙行されたので，その概要について報告する．

ちなみに，当センターは二基のアンジュレータを装備した世界最小の放射光源HiSOR（電子エネルギー0.7 GeV，周長22 mのレーストラック型リング）を有する施設である．しかしながら，1983年の設立準備委員会および84年に発足した設立準備室で立案された当初の構想は中型放射光施設（電子エネルギー1.5 GeV，周長100 m規模）であった．これは本学会誌の前号において開所式の報告がなされた佐賀県の九州シンクロトロン光研究センターの光源を凌駕する規模である．その後，兵庫県西播磨に世界最大の硬X線放射光源SPring-8が建設されるに至り，93年には中型構想と並行して小型放射光施設計画を策定し，95年にVUV～SX領域の軟X線源に焦点を絞った小型放射光施設計画に一本化された．この進路変更が追い風となり，設立準備委員会の発足から13年を経た1996年に広島大学の学内共同教育研究施設として実現したという経緯がある．

その後，光源およびビームラインの整備が進んだのを機に2002年4月から全国共同利用施設として国内外の研究者に解放され，同時に組織も基礎研究部門，光源加速器研究部門，放射光装置研究部門の3部門に改組されて現在に至っている．この間，2003年には「d, f電子系のスピン電子状態に関する放射光国際シンポジウム（SRSES2003）」を開催し，光電子分光学の分野における世界の権威を招聘した．また，2005年からは5ヵ年計画で「放射光ナノサイエンスの全国展開」を推進しているところである．当センターの特徴は，小型リングの故にエミタンスが小さくない光源（ε～400 πnm·rad）にも拘わらず，光源にマッチしたビームラインを構築することで世界水準の高分解能光電子分光を駆使した研究を可能にしているところにある．

十周年記念式典には，準備段階から設立にいたるまでご尽力いただいた広島大学内外の関係各位や今日に至るまでHiSOR施設の性能維持・向上に対して多大のご協力を賜った放射光関係者ならびに関連企業および地方公共団体などから百名を超すご参加を得た．式典の実行委員会（委員長：生天目博文センター長）の任にあった者として謝意を表したい．当日は，これまでに関係各位から賜った温かいご支援ご助力に感謝しつつセンターの設立から今日に至るまでの経緯をご報告申し上げるとともに，センターとしての総力を結集して次の新たな十年に向けて更なる飛躍を期する旨の意思表示を行った．

式次第は，⑴特別講演，⑵記念式典，⑶施設見学，⑷祝賀会の4部から構成されていた．まず，設立準備室の当時からHiSORと縁の深かった太田俊明立命館大学SRセンター長（東京大学名誉教授）から「我国の放射光の歩みと若手への期待」という題で特別記念講演がなされ，放射光を利用できるようになったことで基礎科学の分野においてこれまでにどのような新展開があったか，またそれを引き継いでゆく立場にある今後の放射光科学を担う若手に対しいかなる期待が寄せられているかを約1時間にわたって熱く語っていただいた．記念式典に入って，2004年まで初代HiSORセンター長の職にあった谷口雅樹広島大学理事・副学長よりセンターの歴史的経緯に関する解説があった．準備室の時代を含め，現在のセンターに至る

* 広島大学放射光科学研究センター
（E-mail: tosihori@hiroshima-u.ac.jp）

写真 1　特別記念講演を行う太田教授

写真 3　見学会場となった HiSOR 実験ホール

写真 2　特別記念講演に聞き入る聴衆

写真 4　祝賀会の開始

までの総括がなされたことで，記憶を新たにし感慨もひとしおといった面持ちの参加者が多く見受けられた．次いで，過去に設立準備室長を務めた経験もあるという牟田泰三広島大学長からのご挨拶に続いて，来賓を代表して下村理日本放射光学会長および大野英男㈶高輝度光科学研究センター専務理事からご祝辞を賜った．そして，光源，ビームライン，エンドステーションの各部分に関してそれぞれ顕著なご協力をいただいている住友重機械工業株式会社，株式会社トヤマ，真空光学株式会社の三社に対して感謝状が贈呈された．最後に，ご参加いただいた皆様に対する感謝の気持ちを込めた生天目センター長のご挨拶をもって式典を終了した．

引き続き，場所を移して HiSOR 実験ホールの施設見学が行われ，その後に祝賀会が催された．講演と式典の終了をもって会場を後にする出席者も見受けられたものの，祝賀会は約百名の参加を得て盛況に推移した．会場では，まず原田康夫広島大学同窓会会長（センター設立当時の広島大学長）および高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の若槻壮市放射光施設長からご祝辞をいただき，工藤敏夫広島大学理事・副学長の音頭による乾杯の後，時間の許す限り歓談を楽しんでいただいた．会場には歴代の放射光学会長のうち，佐々木泰三第二代会長，石井武比古第四代会長，上坪宏道第九代会長，太田俊明第十一代会長といったところが現在の下村理第十三代会長とともに揃っており，多くの学会長経験者が一堂に会する機会を得たのを幸い，閉会に先立って記念写真を撮ることで締めくくりとした．

本式典を実施するに当たって，センター記念行事としての開催趣旨にご賛同いただき財政面を含め最大限のご支援を賜った関連企業および関係諸団体に対し実行委員会を代表して厚くお礼申し上げます．

写真 5　祝賀会後の記念集合写真